

慰安婦の「強制連行」認める

政府調査結果

「軍の直接関与」も

「償い」措置は検討を継続

韓国を中心とするアジア全域での従軍慰安婦問題について政府は四日、昨年七月に出した調査以降の調査結果を発表した。焦点の強制連行の有無について「甘言をろうし、畏怖させる等の形で本人たちの意向に反して集めるケースが多かった」との表現で強制的募集が広範に行われていた事実を公式に初めて認定した。

同時に「官憲等が直接これに加担する等のケースもみられた」とし、連行に旧日本軍が直接関与していたことも認めた。

(3面、社会面に関連記事、4面に「記者の目」、6面に政府報告要旨)

四日、記者会見した河野

「わが国の意見を反映」と評価

韓国政府

【ソウル4日 薄木秀夫】

従軍慰安婦問題の調査報告書について韓国外務省当局者は四日、「わが国政府の意見を相当水準に反映したものだ。今後、この問題を両国間の外交問題にしない」と言明した。韓昇洲外

洋平官房長官は、慰安所での慰安婦の生活について「強制的な状況下での痛みしいものだった」と述べ、

戦地への移送、管理も「総じて本人たちの意思に反して行われた」と認定した。また、「多数の女性の名誉

と尊厳を深く傷つけた」と改めて謝罪、民間を含めて同問題の歴史教育を重視していく方針を表明した。

今回は、新たに韓国人元慰安婦十六人を含め関係者約五十人から直接聞き取り調査をする一方、韓国の民

間団体がまとめた証言集も参考にした。政府は証言などの結果を踏まえ、強制的な募集について「業者らが甘言をろうし、畏怖させる」の表現で強制連行があったことを認めるとともに、一部には旧日本軍が直接関与していたと認定した。政府が表明している「補償に代わる措置」について河野長官は「今後とも真剣に検討すべきだ」と述べるにとどめた。

間団体がまとめた証言集も参考にした。

政府は証言などの結果を踏まえ、強制的な募集につ

いて「業者らが甘言をろうし、畏怖させる」の表現で

強制連行があったことを認

めるとともに、一部には旧

日本軍が直接関与していた

と認定した。政府が表明し

ている「補償に代わる措置」

について河野長官は「今後

とも真剣に検討すべきだ」

と述べるにとどめた。